

開講年次・時期	2年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	対面		単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	--	-----	-----

科目名	企業論Ⅱ	担当者名	沼田 郷
授業の概要	現代社会は企業中心社会であるといえます。したがって、企業を理解することが現代社会を理解するうえで非常に重要になります。本講義では、現代社会の中心に位置する企業をなるべく平易に解説し、グローバル化やIT化等の視点から企業を捉え、理解を深めることを目標とします。また、国内企業のみではなく、海外の企業の事例、訪問調査などの成果も交えて講義を行います。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身を見据え、確かめる力</li> <li>・課題を発見する力</li> <li>・集めた情報を組み合わせて、複数の仮説を立てることができる。</li> <li>・専門的知識・技能を活用する力</li> <li>・基礎的な知識・技能を正確に記述し又は正しく表現することができる。</li> <li>・知識・技能の修得(Connections)</li> <li>・図解や文章表現、実験などにより、具体例を提示し説明することができる。</li> <li>・知識・技能の活用(Extensions)</li> <li>・プロセス全体を俯瞰して、結果を予測しながら、目標達成に向けて行動することができる。</li> </ul>		
授業時間外学修(予習・復習)	<p>予習: 次回までに講義において指定した文献を熟読する(60分)          疑問点や質問事項を整理する(30分)          次回の講義に関連する新聞、経済誌を読む。また、統計等を確認する(60分)</p> <p>復習: 講義ノートをつくる。疑問点や質問等を整理する(60分)          参考文献等を読む(60分)</p>		
フィードバックの方法	講義内レポートに関しては、次回の講義においてテーマの背景等を説明します。 中間レポートに関しては、締切以降の講義において、テーマの背景等を解説します。		
単位認定の要件	論述式の試験を行います。		
評価の方法・割合(%)	成績は【学生の達成目標】を基準にして、以下の方法で評価します。 講義内小レポート :20% 中間レポート :30% 試験 :50%		
履修上の注意事項	日々のニュースに関心をもってください。 関心のある産業や企業に関しては、情報を蓄積しておくことお勧めします。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			ガイダンス 企業と環境(日本)	
2			企業と環境(欧州)	
3			多国籍企業とはどのような企業か(フォーチュン誌ランキングより)	ミニッツペーパーを使用し、理解度を確認する
4			多国籍企業論(理論編:S. ハイマー, R.バーノン)	
5			多国籍企業論(理論編:R. コース, 内部化理論)	フォームズを利用し、理解度を確認する。
6			東アジア生産ネットワークと多国籍企業	
7			【産業研究 1】自動車産業(概況)	ミニッツペーパーを使用し、理解度を確認する
8			トヨタ生産システム	
9			自動車産業(エンジンからハイブリッド、そしてモーターへ)	フォームズを利用し、理解度を確認する。
10			下請関係(自動車産業を事例として)	
11			【産業研究 2】日本カメラ産業(フィルムカメラ)	フォームズを利用し、理解度を確認する。
12			日本カメラ産業(デジタルカメラ)	
13			受託生産とは何か	
14			受託生産の利用状況(IT関連財を事例として)	フォームズを利用し、理解度を確認する。
15			本講義のまとめと質疑応答	
期末試験				

使用テキスト	特に指定しませんが、参考となる文献は随時お知らせいたします。
参考文献 参考URL	三戸浩、池内秀己、服部伸夫『企業論』有斐閣、2018年。
備考	

開講年次・時期		授業回数		時間数		授業形態		単位数	
---------	--	------	--	-----	--	------	--	-----	--

科目名	メディア論	担当者名	櫛引素夫
授業の概要	★大きく変化するメディアの構造や特性を学びながら、社会の諸現象への理解を深めます。学生生活の充実や地域とともに生きる諸活動、そして就職活動にどう応用していくか探っていきます。 ★例年は地元新聞社や放送局とのコラボレーションを行っています。 ★ネットやSNS、マスメディアを中心に、概論と個別の事例研究をセットにして展開します。		
科目の到達目標	★学びの上で、また、社会で生きていく上で不可欠な、マスメディアやネット、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の構造と役割を理解し、適切に活用する能力を培います。 ★防災、フェイクニュース、AIなど重要なトピックについて特に理解を深めます。		
授業時間外学修(予習・復習)	★予習:日常的に新聞、テレビのニュース番組・特集番組、ネットの情報などに触れる習慣を付けること。次回の授業テーマを意識して、1週間に2時間以上、記事・ニュースを閲覧または視聴し、ディスカッションに使える知識や情報を入れておくこと。 ★復習:ワークシートなどで授業の「振り返り」を指示します。関連する新聞・テレビのニュースや情報を2時間以上かけて集めた上で、考察・執筆すること		
フィードバックの方法	提出物については授業資料としてまとめ、配布して評価やコメント、解説を行います。また、メールやOffice365によるフィードバックも行います。		
単位認定の要件	★授業に10回以上、参加した上で指示したワークシートを提出すること ★毎回、提出を指示するワークシートおよび中間レポート、期末レポートを提出し、一定の水準を満たすこと		
評価の方法・割合(%)	★授業時(毎週)のワークシート等および中間レポートの内容(50%) ★期末レポートの内容(50%) ※いずれも「分量」と「内容・文章力」を「5:5」のバランスで評価します。		
履修上の注意事項	★教科書は使用しません。毎日の新聞やニュースが「参考書」となります。また、参考文献、参考サイトを随時、紹介します。 ★授業に参加しただけでは出席を認定しません。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			ガイダンスー激変する社会	
2			ネット社会の現状と行方(1)ネット空間の現状	①学生によるスピーチ(任意・随時) ②前回の振り返り(随時) ③時事問題の紹介と解説 ④授業の趣旨・要点説明 ⑤講義と質疑応答 ⑥授業外学習の提示 ★アクティブラーニングを採り入れます。 ★毎回、ワークシートの提出をもって出席を認定します。 ★授業資料は事前に送
3			ネット社会の現状と行方(2)SNSの特性	
4			ネット社会の現状と行方(3)レガシー・メディアの現状	
5			ネット社会の現状と行方(4)AI、フェイクニュースをめぐる	
6			メディア・ワークショップ(1)+第1回中間レポート	
7			レガシーメディアとジャーナリズムの行方(1)	
8			レガシーメディアとジャーナリズムの行方(2)	
9			レガシーメディアとジャーナリズムの行方(3)	
10			レガシーメディアとジャーナリズムの行方(4)	
11			メディア・ワークショップ(2)+第2回中間レポート	
12			災害・防災とメディア	
13			スポーツとメディア	
14			メディア活用と就職活動	
15			まとめ	
期末試験			なし(期末レポートで判定)	

使用テキスト	なし(授業資料を配付)
参考文献参考URL	☆総務省・情報通信白書 <a href="https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/hakusyo/index.html#johotsusintokei">https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/hakusyo/index.html#johotsusintokei</a> ☆メディア定点調査(博報堂) <a href="https://mekanken.com/mediasurveys/">https://mekanken.com/mediasurveys/</a> ☆日本の広告費(電通) <a href="https://dentsu-ho.com/articles/8831">https://dentsu-ho.com/articles/8831</a>
備考	地元新聞社、地元放送局等のメディアと連携した授業を想定しています。

開講年次・時期	2年後期	授業回数	8回	時間数	30時間	授業形態	ハイブリッド	単位数	2単位
---------	------	------	----	-----	------	------	--------	-----	-----

科目名	文化社会学	担当者名	清川 繁人・木原 博
授業の概要	この授業では、青森県や他県、他地域の食・歴史・芸能・言語などについて紹介します。そして、各分野の知識を学びながら、理解を深めていきます。授業の後半では、各自でテーマを設定し、調べたものをまとめ、発表します。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちが生活する地域に目を向け、その歴史や特徴、様式に関する理解を深めることができる。</li> <li>・特定の地域だけでなく、様々な地域の文化を知り、比較しながら文化に関する知識を習得することができる。</li> </ul>		
授業時間外学修(予習・復習)	予習としては、授業に先出でて教材を読み、理解できる点とできない点を腑分けしておくことが望ましい。また、復習の一環として、区切りとなる箇所ごとにミニ・レポートを課す。		
フィードバックの方法	小レポートのフィードバックは、返却時に行う。また、必要に応じて課したものについては、次回の授業時にフィードバックする。		
単位認定の要件	この授業は、講義形式でおこないます。また、2名の教員が担当するため、15回の授業は前半と後半の2パートにわけて進めます。各パート終了後には小レポートを課します。そして、全授業終了後には最終課題に取り組んでいただきます。		
評価の方法・割合(%)	最終課題(50%)、小レポート(50%※2回分)		
履修上の注意事項	専門的概念を知識として習得することよりも、私たちの生活を振り返りながら身近なこととして捉えることが重要です。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			イントロダクション、日本の食文化	
2			青森の名産と郷土料理	
3			日本人の生活	
4			侍と忍者	
5			神道・仏教・修験道	
6			日本人のルーツと縄文文化	
7			中間まとめ・小レポート作成の説明	
8			芸能①【歴史・課題】	
9			芸能②【担い手・伝承】	
10			言語①【調べる・まとめる】	
11			言語②【話す】	
12			文化①【調べる・探す】	
13			文化②【まとめ・発表】	
14			まとめ、小レポート作成の説明	
15			全体まとめ・最終課題の説明	
期末試験				

使用テキスト	
参考文献 参考URL	<p>【参考書籍】          蜂谷翔音(マジカルトリップ)(著)、松本まさ(マジカルトリップ)(著) 2022          『今こそ学びたい日本のこと:知っているようで知らない日本人の心、食文化、職文化、信仰、地域の魅力など(地球の歩き方)』Gakken</p>
備考	

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	対面		単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	--	-----	-----

科目名	地域計画論	担当者名	石井 重成
授業の概要	授業前半では地方創生の事例やキーワードについて多面的に学びます。授業後半では「あなたが青森市長だったら、どんな政策をつくりませんか」という問いに対してグループ討議・研究を行い、プレゼンテーションを実施します。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地方創生」について、その背景や事例・キーワードを理解できる。</li> <li>・青森市の計画を学び、グループワークによって政策を議論し、プレゼンすることができる。</li> </ul>		
授業時間外学修(予習・復習)	授業で学んだこと/自身の考えをノートにまとめる   120分 プレゼンテーションに向けた自主研究・グループでの準備を行う   120分		
フィードバックの方法	授業に関するフィードバック   各回 グループプレゼンテーションに関するフィードバック   最終回 その他相談事項に関するフィードバック   随時		
単位認定の要件			
評価の方法・割合(%)	各授業の出席・参加意欲・討議内容   60% グループプレゼンテーションへの貢献度・内容   40%		
履修上の注意事項	<p>本授業では、人口ビジョン・地方版総合戦略、関係人口、移住定住、中間支援機能、コレクティブインパクト、ファンドレイズ、観光DMO、ローカルSDGs、ローカルベンチャー、シェアリングエコノミー、ワーケーション、高校魅力化など、県内外の事例とともに地方創生のキーワードを学びます。</p> <p>青森市役所や、地域でまちづくり・ビジネスに取り組む外部講師からの情報提供を織り交ぜながら授業を進行します。また、グループでの意見交換、各自のスマホを活用したオンラインQ&amp;Aやアンケートなどを用いて、双方向のアクティブラーニング型授業を実施します。</p> <p>授業で学んだことを生かし、自分なりの視点を組み立てながら、グループでの自主研究を行い、「あなたが青森市長だったら、どんな政策をつくりませんか」を題材にプレゼンテーションを行うものとします。</p>		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			オリエンテーション	
2			地方創生とは何か?①	
3			地方創生とは何か?②	
4			地方創生とは何か?③	
5			ゲスト講話	
6			地方創生とは何か?④	
7			問題定義・解決の手法①	
8			課題	
9			問題定義・解決の手法②	
10			地方創生とは何か?⑤	
11			プレゼン準備	
12			プレゼン発表	
13			プレゼン発表	
14			プレゼン発表	
15			まとめ(プレゼン予備日)	
期末試験				

使用テキスト	教科書は必要ありません。各授業で適宜参考文献を紹介します。
参考文献 参考URL	なし
備考	外部講師のスケジュールにより講義の順番・内容が変更となる可能性があります。

開講年次・時期	1年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	対面		単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	--	-----	-----

科目名	デジタル回路	担当者名	和島 茂
授業の概要	1と0で表現されるデータを処理する回路をデジタル回路といいます。基本要素はAND回路、OR回路、NOT回路です。これらを組合せた論理回路の設計手順とその基礎になっているブール代数について順を追って学びます。カルノー図で論理式が簡単化される原理を学びます。さらにデータを記憶する順序回路の仕組みを学びます。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブール代数と論理回路の関係を理解する。</li> <li>真理値表と論理式に対応関係があることを理解する。</li> <li>カルノー図による論理式の簡単化の原理を理解する。</li> </ul>		
授業時間外学修 (予習・復習)	予習、次回の講義範囲を予め読んでおく(120分) 復習、講義の内容をノートにまとめ、課題に取り組む(120分)		
フィードバックの方法	その時点の暫定成績は授業のページに掲載し、随時更新します。		
単位認定の要件	それぞれの回の課題提出と期末試験の成績を基に評価します。		
評価の方法・割合 (%)	課題(50%)、期末試験(50%)		
履修上の注意事項	教科書をもとに進めます。第3回からは課題としてシミュレータを使った動作確認を行ってまいります。理解しにくい点があった場合は随時質問してください。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			デジタル回路とは	課題提出
2			スイッチ回路と真理値表	課題提出
3			ブール代数と論理式 I	課題提出
4			ブール代数と論理式 II	課題提出
5			真理値表と論理式	課題提出
6			論理式の簡単化 I	課題提出
7			論理式の簡単化 II	課題提出
8			中間試験、論理記号	課題提出
9			論理記号と真理値表、論理式	課題提出
10			論理記号変換	課題提出
11			組合せ論理回路	課題提出
12			加算器	課題提出
13			記憶回路	課題提出
14			フリップフロップ	課題提出
15			学習内容の確認	課題提出
期末試験			試験あり	

使用テキスト	教科書:「基礎からわかる論理回路」第2版、松下俊介、森北出版、2021年
参考文献 参考URL	特になし
備考	特記事項なし

開講年次・時期	1年後期	授業回数	8回	時間数	15時間	授業形態	対面		単位数	1単位
---------	------	------	----	-----	------	------	----	--	-----	-----

科目名	薬学概論Ⅱ	担当者名	高橋 晃
授業の概要	薬剤師としてどのように学ぶかは薬学会論Ⅰで既に学んでいます。それを基に、薬剤師が果たすべき役割と責任について理解を深めます。具体的には、外部から講師を招聘し、薬剤師の在り方について学んだり、医薬品製造工場見学の実施を通して、薬剤師が働く職場について理解したりします。以上のまとめとして、それまでの講義内容を振り返り、小グループに分かれての討議・発表を行います(アクティブ・ラーニング)。		
科目の到達目標	<p>◎自分自身を見据え、確かめる力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を発見する力</li> <li>・集めた情報を客観的に整理しようと努めることができる。</li> </ul> <p>◎専門的知識・技能を活用する力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的知識・技能の理解(Idea)</li> <li>・基礎的な知識・技能が一通り分かる。</li> <li>・知識・技能の修得(Connections)</li> <li>・知識・技能の修得に必要な情報を取捨選択することができる。</li> </ul>		
授業時間外学修(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各講義予定範囲をシラバス等でチェックし、該当箇所に目を通し、分からない用語や疑問点があればまとめておく(2時間)。</li> <li>・各講義終了後、テキスト、配布資料をもとに復習をする(2時間)。</li> <li>重要項目をまとめたり、用語の意味などをチェックする。</li> <li>課題やレポートに取り組む。</li> </ul>		
フィードバックの方法	学生からの質問については、原則次週までにフィードバックします。課題・レポートについては、提出後最初の講義で解説します。		
単位認定の要件	2/3以上出席してください。		
評価の方法・割合(%)	課題・レポート提出(50%)、発表成果物(40%)、授業態度(10%)で評価します。		
履修上の注意事項	講義日時の変更や製薬工場見学に関する情報は、適宜掲示しますので、必ず確認するようにして下さい。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	9/13	9/13	生涯学習①	講義形式
2	9/20	9/20	次世代を担う人材の育成①	講義形式
3	10/4	10/4	次世代を担う人材の育成②	講義形式
4	####		生涯学習②	講義形式
5	####		製薬工場見学	実地見学
6	####		グループ討議	スモールグループディスカッション
7	11/8		発表に向けての準備	グループに分かれての発表の準備
8	####		発表	パワーポイントを利用した発表
期末試験			実施しない	

使用テキスト	薬学総論Ⅰ(日本薬学会編、Ⅰ 薬剤師としての基本事項)東京化学同人 配布資料(プリント等)
参考文献 参考URL	特になし
備考	特になし

開講年次・時期	2年後期	授業回数	8回	時間数	15時間	授業形態	対面		単位数	1単位
---------	------	------	----	-----	------	------	----	--	-----	-----

科目名	地域と健康 I	担当者名	佐藤 昌泰
授業の概要	青森県をはじめとする北東北3県は、特に男性の平均寿命が全国ワースト3に位置し、また青森県は男女ともに最下位となっている。必ずしも平均寿命を延ばすことが理想とは言えないが、本人にとっても家族にとっても、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義づけられる健康寿命を延ばすことが望ましい。そこで「地域と健康 I」では、青森県を例に、食生活や生活習慣、気候等の健康に関わる事柄を調査し、短命県との関連を調査する。		
科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生涯をかけて学び続ける力                     <ul style="list-style-type: none"> <li>学修を継続する力</li> <li>指示がなくても、自発的に学修行動を開始し継続することができる。</li> </ul> </li> <li>人とつながる力                     <ul style="list-style-type: none"> <li>協働する力</li> <li>チームの目標に向けて、他のメンバーと相談して行動することができる。</li> </ul> </li> <li>自分自身を見据え、確かめる力                     <ul style="list-style-type: none"> <li>課題を発見する力</li> <li>情報を集め、一つの仮説を立てることができる。</li> </ul> </li> </ol>		
授業時間外学修(予習・復習)	健康や病気、生活習慣に関し、地域の現状を調査する前に、インターネットや書籍を通じてあらかじめ既知の情報を調べておく(120分)。割り当てられた課題に関連した海外の研究事例を調査し、英文を読解する(120分)。		
フィードバックの方法	昨年の上級生により発表されたデータを開示し、良い点や不十分な点を学生と一緒に考える。最終プレゼン発表では、聞く側の学生の意見を引き出し、教員と一緒に問題点を検討する。		
単位認定の要件	1) 毎回のプロダクトの提出を行うこと 2) 最終発表を行い、発表データを提出すること。		
評価の方法・割合(%)	1) 毎回提出のプロダクト(40%)、2) 発表の内容(40%)、青森県立保健大学が主催する「健やか力検定」試験の成績(20%)により評価する。		
履修上の注意事項	青森県出身の学生はもとより、県外の学生にとっても薬剤師の地域における役割を認識する上で本講義での取り組みは重要であるので、地元との対比をしながら短命県返上の解決策を探ること。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	9/24	9/24	ガイダンス(グループ分け、テーマ提示、調査対象の仮決定、個々の調査分担の決定)	取り組むテーマを決定、提出
2	9/29	9/29	インターネット・図書などによる調査(疾病編)	調査結果の報告、調査シートの提出
3	9/29	9/29	グループディスカッション(疾病編)	グループディスカッションをシートにまとめ、提出
4	9/30	9/30	インターネット・図書などによる調査(生活習慣編)	調査結果の報告、調査シートの提出
5	10/7	10/7	グループディスカッション(生活習慣編)	グループディスカッションをシートにまとめ、提出
6	10/21	10/21	プレゼンデータの作成	プレゼン内容の要旨を作成、提出
7	10/28		発表	発表内容の審査、発表プロダクト(スライド)の提出
8	12/7		あおもり「健やか力」検定受験	検定試験の受験
期末試験				

使用テキスト	あおもり「健やか力」検定『疾病編』『生活習慣編』
参考文献 参考URL	<a href="https://www.auhw.ac.jp/health-literacy/torikumi/kentei.html">https://www.auhw.ac.jp/health-literacy/torikumi/kentei.html</a>
備考	本科目は「地域の健康 II」の導入科目となる。

開講年次・時期	2年後期	授業回数	8回	時間数	15時間	授業形態	対面		単位数	1単位
---------	------	------	----	-----	------	------	----	--	-----	-----

科目名	地域と健康Ⅱ	担当者名	清水 保明
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨今、テレビ、ネット、雑誌などでは、健康食品(鎮痛サプリ、関節サプリ、睡眠サプリ、肥満サプリ等)が多数宣伝されており、中には誇大広告、詐欺と思われる商品も多数あります。薬剤師は、お客様に正しい健康情報を伝え、地域住民のヘルスリテラシーの向上に貢献する必要があります。</li> <li>・健康食品の分類と問題点について解説します。</li> <li>・健康食品と医薬品の違いについて解説します。</li> <li>・臨床試験のエビデンスの質について説明します。</li> <li>・健康食品が顧客にとって有益か無益かを判断出来る能力の向上を図ります。</li> <li>・プレゼン資料作成の基本的ルールについて解説します。基本的ルールの修得は、実務実習発表会、卒業研究発表、学会発表等に役立ちます。</li> </ul>		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎生涯をかけて学び続ける力</li> <li>・自主的に学ぶ力:</li> <li>・複数の情報を基に、課題解決に向けて、図表の作成、例示や提案を行うことが出来る。</li> <li>・人とつながる力</li> <li>・協働する力:</li> <li>・チームの目標に向けて、他のメンバーと相談して行動することができる。</li> <li>◎自分自身を見据え、確かめる力</li> <li>・目標に向けて成し遂げる力:</li> <li>・目標を意識して、初めてのことに楽しんで取り組むことが出来る。</li> <li>◎専門的知識・技能を活用する力</li> <li>・知識・技能の修得:</li> <li>・知識同士又は技能同士を正しく関係づけることが出来る。</li> </ul>		
授業時間外学修(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の1コマは、90分の授業と4時間の授業時間外学修から構成されています。</li> <li>・授業時間外学修(4時間)も利用して、調査と資料作成を進めて下さい。</li> <li>・授業中は、主にチーム内での議論、調査や資料作成の分担調整、教員への相談・質問に使って下さい。</li> </ul>		
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間発表、本発表、最終化資料の内容については、良い点、悪い点、追加記載などをメールにてフィードバックします。</li> </ul>		
単位認定の要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験は行いません。中間発表、本発表、最終化資料作成を元に認定します。</li> <li>・出席数が規程を満たさない場合は、単位認定を行いません。</li> </ul>		
評価の方法・割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績はグループ評価(中間発表 10%、本発表 30%、最終化資料 40%)と個人評価(20%)からなります。</li> <li>・グループ評価では、資料の完成度(推敲しているか、調査範囲の広さ・深さ、引用論文の理解度、結論を導く際の科学性・論理性)、質問に対する回答、他グループへの積極的な質問などを評価します。</li> <li>・個人評価では、授業中の課題への取り組み姿勢や協働姿勢を評価します。受け身にならずに、能動的にグループワークに参加して下さい。</li> <li>・評価の合計が60%に満たない場合は、再履修となります。</li> </ul>		
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークですので、無断欠席、遅刻・早退は、個人評価から減点されます。</li> <li>・資料作成の進め方やまとめ方が分からない場合、論文の内容が理解出来ない場合は、早目に教員に相談して下さい</li> </ul>		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	10/31		講義(健康食品の分類、関連文献の調査方法)、到達目標(テーマの選定)	進捗確認、コミュニケーションカード
2	11/6		講義(プレゼン資料の作成方法)、到達目標(関連文献調査方法の修得)	進捗確認、コミュニケーションカード
3	11/13		講義(臨床試験の論文の見方及びエビデンスの質について) 到達目標(臨床試験データが載っている文献の取得)	進捗確認、コミュニケーションカード
4	11/20		講義(中間発表資料の作成ポイント説明) 到達目標(臨床試験の方法、結果の解釈と考察)	進捗確認、コミュニケーションカード
5	11/27		中間発表(臨床試験の方法と結果、考察を中心に)	発表と教員からのフィードバック
6	12/4		講義(本発表資料の作成ポイント説明) 本発表資料の作成(指摘事項への対応、追加調査)	進捗確認、コミュニケーションカード
7	12/11		本発表(第1グループ)と学生間での質疑応答	発表と学生間での質疑応答 教員からのフィードバック
8	12/18		本発表(第2グループ)と学生間での質疑応答	発表と学生間での質疑応答 教員からのフィードバック
期末試験				

使用テキスト	なし
参考文献 参考URL	消費者庁のホームページ：機能性表示食品制度届出データベース <a href="https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/">https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/</a>
備考	授業は10月後半から毎週、連続で8回行います。